



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月11日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東
コード番号 7458 URL <https://www.dkkaraoke.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 保志 忠郊
問合せ先責任者（役職名） 経理部長（氏名） 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 2024年12月5日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	74,321	4.3	8,996	△4.1	8,991	△7.9	9,598	46.0
2024年3月期中間期	71,256	17.4	9,377	71.5	9,758	69.0	6,576	9.8

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 9,810百万円(39.6%) 2024年3月期中間期 7,029百万円(13.2%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	90.43	90.21
2024年3月期中間期	60.91	60.79

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	202,631	112,635	54.9
2024年3月期	211,386	108,991	50.9

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 111,169百万円 2024年3月期 107,581百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	28.00	—	29.00	57.00
2025年3月期	—	28.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	29.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	152,700	4.1	18,800	1.1	18,900	△3.4	16,200	28.9	154.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	109,468,400株	2024年3月期	109,468,400株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	4,493,007株	2024年3月期	2,613,807株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	106,149,857株	2024年3月期中間期	107,970,535株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(中間連結損益計算書)	7
(中間連結包括利益計算書)	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2024年4月1日～2024年9月30日、以下「当中間期」という)におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善を受けて個人消費の持ち直しが見られたほか、インバウンド需要の増加などの後押しもあり、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、海外での政情不安や為替相場の変動、物価上昇といった懸念も継続しており、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当カラオケ業界におきましては、主力市場であるナイト市場・カラオケボックス市場を中心に、全体として緩やかに需要が改善するなかで、各商圈において中心地へ需要が集中する傾向はより顕著になりつつあります。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当中間期の業績は、売上高は74,321百万円(前年同期比4.3%増)となりました。利益面におきましては、販管費の増加などの影響により、営業利益は8,996百万円(同4.1%減)、経常利益は8,991百万円(同7.9%減)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、特別利益として固定資産売却益4,414百万円を計上したことなどにより、9,598百万円(同46.0%増)となりました。なお、中間期における売上高及び親会社株主に帰属する中間純利益は過去最高となっております。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	71,256	74,321	3,065	4.3%
営業利益	9,377	8,996	△381	△4.1%
経常利益	9,758	8,991	△767	△7.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	6,576	9,598	3,022	46.0%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、主力市場であるナイト市場及び成長市場であるエルダー市場を中心として緩やかに改善が進んでおり、当中間期末のDAM稼働台数は、前年同期比2%増となりました。

そのようななか、市場ごとの施策を推進し、DAM稼働台数の増加に努めるとともに、前期に引き続き賃貸機器の新機種への入替を推進することにより、安定的収益基盤の強化に努めました。また、ライブ映像・アニメ映像・ミュージックビデオなどの映像コンテンツをさらに充実させることにより、カラオケDAMの商品力強化を図りました。

エルダー市場においては、「歌うこと＝健康」という認知が広がり、介護施設等への訪問営業やオンラインコンサートの実施などを通じてエルダー市場専用機である「FREE DAM LIFE(フリーダムライフ)」の拡販と、介護現場における職員の負荷軽減に繋がる新機能の訴求を進めました。

以上の結果、前年4月に発売した「LIVE DAM AiR(ライブダムアイアール)」の新商品効果が剥落し、卸売を中心とした商品販売売上が前年同期に及ばなかったものの、機器賃貸件数及びDAM稼働台数の増加に伴うストック収入が増加したことにより、売上高は前年同期比1.0%の増収となりました。利益面におきましては、商品販売粗利の減少や販管費の増加などの影響により、営業利益は前年同期比6.7%の減益となりました。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	30,483	30,790	307	1.0%
営業利益	6,947	6,480	△466	△6.7%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、カラオケ5店舗、飲食6店舗の出店及びカラオケ4店舗、飲食10店舗の閉店を行ったことにより、当中間期末の店舗数はカラオケ507店舗、飲食155店舗となりました。なお、飲食店舗の出店・閉店にはブランド変更や複合店の統合を含みます。

店舗の集客は、前期から緩やかな上昇傾向が継続しており、8月には台風10号の影響を受けつつも、当中間期の既存店売上高はカラオケ店舗・飲食店舗とも前年同期比4%増となりました。

このようななか、ビッグエコー店舗においては“BIG SMILE, BIG ECHO. 歌おう、笑おう、みんなともっと”をスローガンに掲げ、メーカー直営店としてカラオケ機器、音響設備のクオリティを高めるとともに、店舗リニューアルの推進により綺麗で快適な店舗環境の構築を図りました。また、自動受付機・精算機の導入を促進し、利便性の向上を図るほか、多様なアーティストやアニメ作品とのコラボレーション企画等を積極的に展開し、カラオケを通して様々な喜びと楽しさの創出に努めました。

飲食店舗においては、予約受注が好調に推移するなかで、お客様の意見を簡便に収集・数値化できるシステムを活用した顧客満足度に見える化を進め、店舗環境、接客サービス、料理のクオリティ向上を図りました。また、ダーツ業態である「ダーツワン」2店舗を出店するなど、幅広く集客の獲得を推進しました。

以上の結果、売上高は前年同期比3.7%の増収となりました。利益面におきましては、店舗設備のリニューアル投資や人件費の増加などの影響により、営業利益は前年同期比4.5%の減益となりました。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	30,685	31,820	1,135	3.7%
営業利益	2,680	2,560	△119	△4.5%

(音楽ソフト)

当事業におきましては、新人アーティストの発掘とヒット曲の創出に努めるとともに、音楽出版事業にも注力することにより、堅実な収益モデルの構築に努めました。また、プロフィギュアスケーター羽生結弦の公演を映像化した『プロログ』『G I F T』の販売が好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は前期に行った株式譲渡によってテレビ番組制作事業が剥落したことにより、前年同期比12.5%の減収となりましたが、CD・DVD等の商品販売や音楽出版事業については堅調に推移し、営業利益は前年同期比21.1%の増益となりました。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	3,169	2,772	△397	△12.5%
営業利益	156	189	32	21.1%

(その他)

当事業におきましては、新たな収益の柱とすべく「ザ・パーク」ブランドで展開するパーキング事業の業容拡大が進展し、前期に子会社化いたしました(株)クレストも含め、当中間期末時点で3,600施設、40,000車室を超える規模に拡大いたしました。また、「スターデジオAir」等で展開するBGM事業や、家庭用カラオケサービス「カラオケ@DAM」についても堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高はパーキング事業収入が増加したことなどにより前年同期比29.2%の増収となり、営業利益は前年同期比44.3%の増益となりました。

(百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	6,917	8,937	2,020	29.2%
営業利益	795	1,148	352	44.3%

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8,755百万円減少し、202,631百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では現金及び預金が7,799百万円減少しております。

固定資産では土地が4,295百万円減少し、カラオケ賃貸機器が834百万円、カラオケルーム及び飲食店舗設備が1,173百万円及び投資有価証券が825百万円それぞれ増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ12,399百万円減少し、89,995百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債ではその他に含まれる未払金が1,592百万円減少しております。

固定負債では長期借入金が10,370百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,644百万円増加し、112,635百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益による利益剰余金の増加9,598百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少3,098百万円及び自己株式の取得による減少3,104百万円によるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ7,775百万円減少し、41,530百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前中間純利益が14,197百万円、減価償却実施額が6,841百万円、投資有価証券売却益が1,118百万円、固定資産処分益が4,336百万円及び法人税等の支払額が4,304百万円等により、前中間連結会計期間に比べ559百万円増加し、10,006百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が7,261百万円、有形固定資産の売却による収入が8,608百万円、無形固定資産の取得による支出が1,861百万円及び映像使用許諾権の取得による支出が1,088百万円等により、前中間連結会計期間に比べ8,453百万円減少し、1,222百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出が10,808百万円、配当金の支払額が3,099百万円、自己株式の取得による支出が3,104百万円等により、前中間連結会計期間に比べ2,875百万円減少し、16,575百万円となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月8日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	49,694	41,895
受取手形及び売掛金	5,894	5,759
棚卸資産	11,216	10,556
その他	7,005	7,364
貸倒引当金	△331	△291
流動資産合計	73,479	65,285
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器(純額)	9,122	9,957
カラオケルーム及び飲食店舗設備(純額)	10,875	12,049
土地	40,111	35,816
建設仮勘定	32,120	32,445
その他(純額)	7,002	7,760
有形固定資産合計	99,233	98,029
無形固定資産		
のれん	5,668	5,375
その他	5,616	5,543
無形固定資産合計	11,285	10,919
投資その他の資産		
投資有価証券	6,060	6,885
敷金及び保証金	14,341	14,439
その他	7,112	7,192
貸倒引当金	△126	△121
投資その他の資産合計	27,388	28,397
固定資産合計	137,906	137,346
資産合計	211,386	202,631

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,332	3,557
短期借入金	12,885	12,897
未払法人税等	4,746	5,044
賞与引当金	1,214	1,791
その他	13,735	11,482
流動負債合計	36,914	34,772
固定負債		
長期借入金	51,533	41,163
役員退職慰労引当金	666	561
退職給付に係る負債	7,986	8,135
資産除去債務	1,879	1,857
その他	3,414	3,505
固定負債合計	65,480	55,223
負債合計	102,394	89,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,211	4,211
利益剰余金	96,350	102,850
自己株式	△6,571	△9,675
株主資本合計	106,340	109,736
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,466	1,643
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	188	214
退職給付に係る調整累計額	320	308
その他の包括利益累計額合計	1,240	1,432
新株予約権	374	420
非支配株主持分	1,035	1,046
純資産合計	108,991	112,635
負債純資産合計	211,386	202,631

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	71,256	74,321
売上原価	45,381	47,971
売上総利益	25,874	26,349
販売費及び一般管理費	16,497	17,353
営業利益	9,377	8,996
営業外収益		
受取利息	12	13
受取配当金	69	100
受取保険金	48	166
受取協賛金	98	91
為替差益	11	-
受取補償金	-	285
その他	301	358
営業外収益合計	541	1,015
営業外費用		
支払利息	70	214
為替差損	-	8
解約違約金	4	9
助成金返還損	-	653
その他	84	133
営業外費用合計	159	1,019
経常利益	9,758	8,991
特別利益		
固定資産売却益	2	4,414
投資有価証券売却益	-	1,118
特別利益合計	2	5,532
特別損失		
固定資産処分損	93	77
減損損失	35	249
特別損失合計	129	327
税金等調整前中間純利益	9,631	14,197
法人税、住民税及び事業税	3,179	4,666
法人税等調整額	△139	△86
法人税等合計	3,039	4,579
中間純利益	6,592	9,617
非支配株主に帰属する中間純利益	16	18
親会社株主に帰属する中間純利益	6,576	9,598

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	6,592	9,617
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	361	177
為替換算調整勘定	78	26
退職給付に係る調整額	△3	△11
その他の包括利益合計	437	192
中間包括利益	7,029	9,810
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	7,013	9,791
非支配株主に係る中間包括利益	16	18

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	9,631	14,197
減価償却費	5,830	6,841
のれん償却額	37	268
減損損失	35	249
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△466	△104
受取利息及び受取配当金	△82	△114
支払利息	70	214
為替差損益(△は益)	△66	△15
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△1,118
固定資産処分損益(△は益)	91	△4,336
助成金返還損	-	653
売上債権の増減額(△は増加)	△77	128
棚卸資産の増減額(△は増加)	823	664
カラオケ貸貸機器の売上原価振替	38	40
前渡金の増減額(△は増加)	△251	△274
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,386	△766
未払金の増減額(△は減少)	△644	△1,634
その他	△1,248	175
小計	12,335	15,068
利息及び配当金の受取額	81	113
利息の支払額	△72	△218
助成金の返還額	-	△653
法人税等の支払額	△2,897	△4,304
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,446	10,006
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10	△10
定期預金の払戻による収入	10	33
有形固定資産の取得による支出	△7,075	△7,261
有形固定資産の売却による収入	3	8,608
無形固定資産の取得による支出	△1,560	△1,861
映像使用許諾権の取得による支出	△1,003	△1,088
投資有価証券の売却による収入	-	1,389
投資有価証券の取得による支出	△73	△802
貸付けによる支出	△30	△39
貸付金の回収による収入	117	106
敷金及び保証金の差入による支出	△131	△317
敷金及び保証金の回収による収入	101	186
その他	△23	△164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,676	△1,222

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△309	90
長期借入れによる収入	400	360
長期借入金の返済による支出	△10,421	△10,808
配当金の支払額	△3,112	△3,099
自己株式の取得による支出	△6,000	△3,104
その他	△7	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,450	△16,575
現金及び現金同等物に係る換算差額	66	15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△19,613	△7,775
現金及び現金同等物の期首残高	71,423	49,306
現金及び現金同等物の中間期末残高	51,810	41,530

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	30,483	30,685	3,169	64,338	6,917	71,256	—	71,256
セグメント利益 (営業利益)	6,947	2,680	156	9,784	795	10,580	△1,202	9,377

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,202百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	30,790	31,820	2,772	65,383	8,937	74,321	—	74,321
セグメント利益 (営業利益)	6,480	2,560	189	9,230	1,148	10,378	△1,382	8,996

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パーキング事業、不動産賃貸及びBGM放送事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,382百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。